

普及現地情報



発信年月日:令和7年(2025年)3月11日

所 属 名:東近江農産普及課東部

番 号:D24028

発 信 者 名:小嶋、次世代地域営農支援チーム

グリーンな栽培体系への転換サポート事業の成果報告会を開催

令和7年2月26日、東近江市八日市地域法人連絡協議会の構成法人および八日市人参生産部会を対象に『省力的または環境にやさしい栽培技術に関する検討会』と題して表題報告会を開催しました。当日は集落営農法人やニンジン生産者、関係機関あわせて55名が参加し、ニンジン、水稻、小豆の新しい栽培技術等について理解を深めました。

東近江市八日市地域では令和7年度から約650haで国営ほ場整備事業が計画されており、ほ場整備事業完了後には大区画ほ場になるほか、200ha強の面積で高収益作物の生産が計画されています。ほ場整備に合わせた効率的かつ持続可能な栽培体系への見直しが必要になってくることから、グリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用してニンジン、水稻、小豆の新しい栽培技術等について実証し、今回、その成果報告と意見交換を実施しました。

ニンジンは『機械による中耕除草と機械収穫に適した品種の選定』、水稻は『湛水直播栽培とプラスチック被覆肥料からの切替え』、小豆は『狭条密植栽培とドローン防除』をそれぞれ報告しました。あわせて、八日市地域の主な担い手である集落営農法人の人材確保の参考となるよう『集落営農法人における専従者雇用の事例』についても報告し意見交換を行いました。

令和6年は記録的な高温や少雨が続いた時期もあり、期待した成果が得られなかった技術もあります。当課は引き続き国や市、JAなど関係機関・団体と連携して様々な技術の実証と改善を行うとともに、技術の導入に向けた経営的な支援を行い、未来につなぐ次世代水田農業の実現を目指します。



報告会の様子